

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 平成28年度第2回美里町地域福祉計画策定委員会
- 2 開催日時 平成28年12月20日(火)午後1時30分から午後3時10分まで
- 3 開催場所 美里町健康福祉センターさるびあ館 2階 研修室
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員 笠松清委員、黒沼篤司委員、森芳四郎委員、岩瀬美津枝委員、小西敬二委員、西城芳江委員、高橋章一委員
 - (2) 事務局 青木健康福祉課長、渡辺課長補佐、藤崎社会福祉係長
 - (3) その他 株式会社ぎょうせい松永主任研究員
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別
 - (1) 議題
 - ・町民向けアンケート調査の結果について
 - ・美里町地域福祉計画の素案について
 - (2) 公開区分 公開
- 6 非公開の理由
該当なし
- 7 傍聴人の人数
1人
- 8 会議資料
 - 資料1 地域福祉に関するアンケート調査報告書(案)
 - 資料2 第1期地域福祉計画(案)(未定稿)
- 9 会議の概要
 - (1) 会議録署名人 森芳四郎委員、西城芳江委員
 - (2) 詳細な意見(発言者氏名及び発言内容の詳細な記録(全文筆記))
事務局(青木課長) 委員の皆様おそろいでございますので、早速、平成28年度第2回美里町地域福祉計画策定委員会を開会させていただきます。
本日は事務局3人のほかに、本計画のアンケートの調査から計画の策定までお願いしております、株式会社ぎょうせいの主任研究員でいらっしゃいます松永様にも同席していただいておりますので、皆様にご紹介申し上げます。
(株)ぎょうせい(松永) 松永と申します。このたびはよろしくお願ひいたします。
事務局(青木課長) それでは、議事の進行を議長であります黒沼会長にお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひします。
黒沼会長 それでは、早速開会させていただきます。
初めに、会議録署名人の選任ということでもありますので、私の方から指名してもよろしいでしょうか。
(「はい」と呼ぶ者あり)
黒沼会長 それでは、森委員と西城委員にお願いしたいと思ひます。

それでは、3番目の協議事項に入らせていただきます。

(1) 町民向けアンケート調査の結果について、資料1とありますが、事務局、よろしくお願いたします。

事務局(渡辺) 皆さん、お忙しい中ありがとうございます。事務局の渡辺です。

まず、私の方から、資料1ということで、皆さんに事前に町民向けアンケートの調査結果を送らせていただきました内容につきましてご説明したいと思いますが、本日、皆さんお持ちでしょうか。本日お渡ししています資料の確認ですけれども、資料2として地域福祉計画(案)(未定稿)という冊子のものになります。あと次第です。それから、A4の1枚で両面刷りのもので、1、調査概要となっているものです。これから私が説明いたしますが、皆さんに事前にお送りいたしましたアンケート調査報告書(案)、この1ページ目のところを本日お渡ししたものに差し替えをお願いしたいと思います。

事前にお配りしたアンケート調査報告書(案)1ページ目から3枚めくっていただきまして、1、調査概要の部分です。皆さんにお配りした資料につきましては、(2)実施概要に《調査概要》とありまして、が6つほどあるんですけれども、の1個目のところ、調査対象ということで、美里町内にお住まいの18歳以上70歳未満の方という書き方でしたが18歳以上の方になりますので、70歳未満の箇所は削除いただくようお願いします。

それから、抽出方法の箇所も、性別、年齢、地域を勘案とございますけれども、おおむね町の人口の比率に沿うよう無作為に2,000名を抽出したということでございます。

それから、の3つ目、お配りしたときには4番の安全な暮らしという項目がございましたが、この部分はございませんので、削除になります。したがって、下の5から9の番号が、4.福祉情報の入手となりまして、以下、数字が変わりまして、8.町の福祉施策と変更になります。の5つ目の調査方法ですが、郵送配付・地区別回収とあります。地区別回収というのはしておりませんので、申し訳ございませんが、地区別というところは削除になります。郵送配付・回収ということで、1回目の会議の時に皆様にご協議させていただいたとおりでございます。大変申し訳ございませんでした。訂正方お願いしたいと思います。

それでは、今回、このアンケート調査報告書(案)につきましては委員の皆様にも事前にお配りしておりますので、詳細な説明は省きたいと思っております。簡単にご説明させていただきます。

資料3ページ目をお開きいただきたいと思います。

今回の調査結果につきまして、項目ごとに数値としてパーセントでの表示をしてございます。このアンケート調査の中身については、ごらんとおり、総数に対する割合を含めた形の表示から、あと年齢の区分も参考までに載せているところもありますし、さらにもう少し詳しく載せているところもあります。ですが、今回は簡単に説明していきたいと思っております。

性別につきましては、約4割が男の方で、残り6割が女性の方ということでございます。年齢につきましては、60代の方が3割ということで、一番高くなったというこ

とでございます。ページをめくっていただきまして、4ページ目です。(3)家族構成でございます。一番多かったのが、親と子の2世代ということで、43.4%ということで、一番多い家族構成となっております。

5ページ目、(4)同居家族につきまして、同居の家族が65歳以上というのは、今回46.2%ということで、最も高くなっております。

次の6ページ目、(5)居住地域、お住まいの地区ということですが、おおよその人口の比率と同じような比率になってございまして、小牛田地区が47.7%、不動堂地区30.2%、南郷地区21.3%となっております。

7ページ目の(6)でございます。職業につきましては、無職とお答えの方が26.2%で、その次に会社員等で23.4%、家事専業が20.4%というお答えでございました。

8ページ目、(7)居住年数でございます。30年以上とお答えした方が65.7%となっております。

続きまして、10ページ目をご覧いただきたいと思っております。地域での暮らしについてお聞きしてございます。

まず、(1)近所の方との付き合いということでお聞きしてございます。どの程度のお付き合いをしているかということで、これは1つにをつける設問でございます。ある程度付き合っているが49.2%、親しく付き合っているが20.6%ということで、合わせまして約7割の方が近所の方とのお付き合いがあるということでした。あまり付き合っていないと、それから全く付き合っていないとを合わせました残りの約3割の方は、付き合いはないとの回答となっております。

ページをめくっていただきます。12ページ(2)でございます。地域で助け合う気風についてという問いでございます。困っている場合に助け合う気風があるかという質問でした。部分的にはあると思うとお答えになった方が52.8%ということで、一番高くなっております。それに全体的にあると思うも合わせますと78.6%、約8割の方が、助け合う気風があると感じていると回答していますが、逆に言いますと、全体としてあまりないと感じている方が8.5%いらっしゃるということでございます。

めくっていただきます。14ページ(3)地域での手助けできることでございます。ご近所とお付き合いの中で、困っている方がいたときに手助けできると思うことはどのようなものがあるかという問いでございます。1番目の安否確認の声かけ、これが66.8%ということで、最も高かった回答でございます。続いて、53.1%の災害時の手助け。それから、話し相手が43.4%ということで、この3つが上位でございます。

ページをめくっていただきます。17ページ(4)困ったときに手助けしてほしいことはどのようなものがあるかという問いでございます。これは複数回答になります。一番多かったのが、災害時の手助け、これが56.4%で一番高かった回答です。次いで、安否確認の声かけ、これも高く53.3%という回答でした。

続きまして、ページをめくっていただきまして、20ページでございます。3番、地域活動についてです。(1)地域活動への関心でございます。地域福祉に関するボランティアやNPO活動、地域活動に関心はあるかという問いでございます。ある程度関心があるという回答が55.2%で、最も高くなっております。

めくっていただきます。22ページ(2)地域活動への参加状況についてです。地域福祉に関するボランティアやNPO活動等、地域活動にどの程度参加しているかという問いでございます。一番多かったのが、参加したことがないというのが44.7%で、一番高くなっております。参加しているという回答が20.2%。参加したことがあるが19%。これを合わせますと、39.2%約4割の方が参加経験があるということでございますが、先ほど申し上げましたとおり、参加したことがない、それから参加することができないを合わせますと、約6割の方は参加経験がないという回答でした。

めくっていただきます。24ページ(3)活動内容・きっかけでございます。前の設問で、参加している、あるいは参加したことがあると回答した方のさらなる質問でございます。どのような活動をしているか、あるいはしたか。それから、活動のきっかけはどのような理由でしたのかということで、複数回答になっております。活動内容につきましては、地域での清掃活動、これが57%で最も高く、それから町内会、子ども会、PTAに関する活動について44.4%となっております。それから、防犯・防災などに関する活動が34.2%という回答でした。

めくっていただきます。26ページ、活動のきっかけでございます。地域をより住みやすいものにしたいからという回答が最も高く、47.3%。持ち回りの当番制となっていたからが38.5%。社会や他人のためになる活動がしたいからが33.7%の回答でした。

めくっていただきます。29ページでございます。(4)参加したことがない、あるいは参加できない理由でございます。参加したことがない、参加することができないと回答した方への質問となっております。参加したことがない、あるいはできない理由は何かという問いに対する回答になります。仕事や家事、育児、介護など、他にやることがあって忙しいからという回答が49.8%でした。次いで、何を、いつ、どこでやっているのかわからないからという回答が41.1%でした。

ページをめくっていただきます。32ページになります。4番、町の福祉情報の入手についてでございます。

(1)町の福祉情報を必要とした経験についてです。これまで保育サービスや高齢者、障害者への福祉サービスなど、町の福祉情報を必要としたことがあったかの問いにつきまして、あったとお答えした方が34.7%でございました。

めくっていただきまして、34ページの(2)情報入手・手段についてになります。前の設問(1)であったと回答した方の回答になりますが、必要としたときにすぐに入手できたかという問いに対しまして、すぐに入手することができたという回答が48.9%、時間がかかったが手に入れることができたが40.2%でした。

めくっていただきまして、36ページでございます。情報の入手手段についてになります。ここも、前の設問(1)であったと回答した方の入手手段になりますけれども、公的機関の窓口(町の窓口等)、これが52.6%。次いで、民生委員、ケアマネジャーなどからの情報が41.1%ということでございます。

めくっていただきます。38ページでございます。(3)今後の福祉情報の入手方法についてになります。町の福祉情報をどのような方法で入手したいかということで、3

つまで回答できる設問でございます。訂正でございます。「回答者の今後の福祉情報の入手方法については、」の次ですが、「今後の福祉情報の入手方法について」と記載がありますけれども、「町の広報紙」と訂正方お願いいたします。一番高い回答は、下のグラフのとおり、町の広報紙が64.8%でございました。訂正方お願いいたします。大変失礼いたしました。続きまして、地区の回覧板が40.5%、それから公的機関の窓口が32.3%という回答でした。

ページをめくっていただきます。41ページ、5番、福祉サービスについてになります。

(1)福祉サービスを利用したいと思った経験についてでございます。高齢者等に関する福祉サービスについて、自分を含め家族の中でこれまで福祉サービスを利用したいと思ったことはあったかという問いです。あったとお答えになった方が41.8%いらっしゃいました。

めくっていただきます。43ページ(2)実際の利用状況についてです。先ほどあったとお答えになった方で、実際に利用したかという問いになります。家族が利用したという回答が一番多くて、68.4%。ご自身が利用したというのが13.5%でした。

めくっていただきます。45ページ(3)福祉サービスの利用にあたって困ったことになります。前の設問で自分自身が利用した、家族が利用した、自分と家族の双方が利用したと回答された方の、さらなる回答でございます。福祉サービスの利用にあたって困ったことは何ですかという問いになります。回答で一番多かったのが、困ったことは特になかったというのが70.4%でございました。次いで、利用したい期間(日数)を利用することができなかったというのが13.1%となっております。

めくっていただきまして、48ページでございます。(4)福祉サービスを利用しなかった理由です。前の設問で利用しなかったとお答えになった方のさらなる回答で、サービスを利用しなかった理由は何かという問いになります。一番多かったのが、家族で対応できたというのが48.9%。続いて、利用したいサービスがなく、受けることができなかったというのが24.4%でした。

ページをめくっていただきまして、51ページでございます。(5)必要なサービスが受けられているかについてでございます。町内で、介護保険等、福祉サービスを必要としている人が十分なサービスを受けていると思うか、また、その理由についても記入いただくという設問になります。ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思うとお答えになった方が33.4%、十分な福祉サービスを受けているとは思えないとの回答が15.3%で続いてございます。なお、一番多かったのが、わからないという回答で40.8%でした。

続きまして、ページをめくっていただきまして、53ページです。6番、相談についてになります。

(1)誰かに相談したいと思うかについてでございます。ふだんの暮らしの中で困ったことがあるときに、誰かに相談したいと思うかという問いです。思うとお答えになった方が80.2%でございました。

めくっていただきまして、55ページになります。思うとお答えになった方に対して、どなたに相談したいかという問いになります。一番多かったのが、同居の家族で、

67.1%。次いで、友人・知人で43.3%。同居していない家族で、35%と続いております。

ページをめくっていただきまして、58ページでございます。(3)相談したいと思わない理由になります。前の設問で思わないと回答した方のさらなる質問で、相談したいと思わない理由は何かということで、複数回答になります。自分で解決したいからという答えが一番多くて、52.7%。他人を巻き込みたくないからというのが27.5%。相談しても満足いく回答が得られないと思うから、これが25.7%ということでございました。

ページをめくっていただいて、61ページをお開きいただきます。(4)民生委員・児童委員、健康協力員について、それぞれの活動について知っているかという設問でございます。まず、民生委員・児童委員につきましては、知っているとお答えになった方が29.7%。少し知っているが23.2%。したがって、約半分、5割の方が知っているという回答でございました。

ページをめくっていただきまして、63ページ。健康協力員になります。知っているとお答えした方が25.2%。少し知っているが17.1%。合わせますと、約4割の方が知っているという回答でございました。

ページをめくっていただきまして、66ページでございます。7番、人権・権利擁護についてになります。

(1)人権や権利擁護への関心についてです。人権や権利擁護に関するどのようなことに関心があるかという問いでございます。認知症高齢者や障害者等の権利擁護についてと答えた方が一番多く、51.8%。虐待や暴力の防止についてが49%。差別や偏見をなくすことについてが39%でございました。

ページをめくっていただきまして、68ページ(2)虐待、家庭内暴力などを見たり聞いたりした経験になります。身近な場所で子どもや高齢者等への虐待、家庭内暴力等を見たり聞いたりしたことがあるかという問いに対して、あるとお答えになった方が9.7%でした。

めくっていただきまして、70ページです。あるとお答えした方へのさらなる質問で、そのときあなたはどうかという質問でございます。自分の家族とそのことについて話をした、これが45.2%。次いで、近所の人とそのことについて話をしたとの回答が32.3%でした。

ここまでの大きい7つの項目の30問に対しましては、番号にをつけていただく内容でした。次の8番目、町の福祉施策については自由に記載いただく問いでございました。要約したものが73ページと74ページでございます。

まとめますと、主に子育て、障害者、高齢者支援に対するご意見、ご要望、それから福祉サービスに関する周知、相談のあり方、公共交通機関等の移動手段などへの要望について記述での回答があったということでございます。

雑ぱくですけれども、説明は以上でございます。

黒沼会長 ありがとうございます。

それでは、このアンケート調査に関しまして何かご質問などがありましたらお願いし

たいと思います。

西城委員 私も最初、このアンケートで70歳未満となっているのに、何で80歳以上が入っているのと、ちょっと憤慨したんですけども、ただ、年齢、性別とか何とか、本当は勘案してほしかったと思います。無作為にとっても、それとかこの回収率のところ、18歳以上で、3名でもう数字が大きく変動するんですよね。そういうこともあるし、やっぱり年代ごとに、性別ごとに、地域ごとにある程度きちんと人数を決めて、そうでないとこの調査の正確なデータというのが出ないんじゃないかと思うんです。正確なデータが出ないことには、いくら議論していても、この地域福祉計画というのは現実と離れた計画になっていくんじゃないかなと思います。

そんなわけで、この配布数と回収数の地域別の確かな人数をお教えいただきたいと思います。やっぱり現実を離れた計画では、何の役にも立たないんじゃないでしょうか。

事務局（渡辺） 回収した居住地域につきましては、6ページのところに、小牛田地区で47.7%、不動堂地区で30.2%、南郷地区で21.3%という回答の内容については把握しております。委員さん、配布数ですか。

西城委員 配布数。それに対してどのくらい回収されたか。

事務局（渡辺） 地区ごとの配布数は把握しておりますが、今手元に資料がありませんので、後ほどお答えしたいと思います。

西城委員 お願いします。それならば、あとは年代別、性別、地区別。

事務局（渡辺） 無作為に抽出したアンケート調査になっておりますけれども、性別、年代別、地域別、この3つについてデータとしてつかんではおりますが、詳細な内容になります。今手元にありませんので後でお答えさせていただきます。

西城委員 でないと、最初から配布するのが少ないと、もちろん回収数が減ってくるし、それでないと、現実離れた数字しか出てこないんじゃないかと思いますけれども、どうなんですかね。

高橋委員 逆に、何でこの3つに絞ったのか。3カ所だけの結果として、何で3カ所だけになったのかという、絞った理由。

西城委員 それも出てくるよね。

事務局（渡辺） 3カ所というのは。

西城委員 小牛田地域、不動堂地域、あとは南郷地域。

高橋委員 そういうふうには絞った理由。

事務局（渡辺） 小牛田、不動堂、南郷という、この3つというのは、いわゆる中学校区でくくったものです。

西城委員 多分、そういう感じかなと思うんだけど、小牛田地域だって、小牛田の部分と中塚、北浦の部分ではかなり意識の違いは出てくるし、不動堂地区でも、新しい駅東とかと不動堂6区、7区辺りのところとではかなり違って来るんですよね。世帯もかなり違って来るので、やっぱりちょっと手数をかけると思うんですけども、そのところを詳しい、元のところを教えてくださいたいと思います。でないと、後の方の地域とのかかわり方なんかはかなり違って、見方も違ってきますね。

事務局（渡辺） お答えはいたしますけれども、今のご質問の内容は再度確認をする必

要がある内容でございます。お時間をいただきたいので即答することはご勘弁いただきたいのと、あと1回目の策定委員会の時に、設問の大きな項目の内容についてご協議いただきご承認いただいておりますし、あと無作為での2,000人抽出と、小西委員から調査対象年齢を20歳から18歳にとのご意見がございましたので、その辺を調整し実施したということで、ご理解いただければと思います。確認しなければいけない内容については、時間をいただいておりますのでお答えしたいと思います。

黒沼会長 それでは、西城委員、それでよろしいでしょうか。

西城委員 はい。

黒沼会長 どうぞ。

小西委員 まず最初に、このアンケートの調査結果をまとめられたのを見て、955枚の、あるいは955人分の統計を大変綿密にやられた手数と時間、そういう労力と努力に対して、大変敬意を表したいと思います。大変ご苦労さまでした。

大まかな全体の傾向は、私のような素人にも読み取れますし、それから大まかな3つの中学校区のおよその傾向というのも、もらったときに目を通しましたが、大体私にもつかめましたので、大変ご苦労さまでしたというふうに申し上げたいと思います。

ちなみに、これだけに整理するまで、何人の方でどれぐらいの時間がかかりましたか。
(株)ぎょうせい(松永) 私の方からお答えさせていただきます。入力に関しましては、4、5名で入力に当たらせていただきまして、ただ、単純に入力しますと誤差も出ますので、実際には2名・2名体制で入力して、突合した結果でエラーチェックをさせていただきまして、完全性を高めました上で集計をさせていただきました。さらに、集計に関しましては、集計担当がこちらにいますので、そちらの方の2名体制で集計、単純集計とグラフ作成、あるいはクロス集計。クロス集計というのは表になっていて、年齢別、性別、あるいは地区別といった形の分析、大まかにまずそこをさせていただいたところです。

最終的に報告書に集約させていただいたのは、私の方で作成させていただきました。その際、今回、いわゆる支援の必要な方に対するクローズアップが必要ではないかということも含めまして、設問の中でも5ページのところにありますが、同居の家族についてというのがございます。ここでは、同居の家族の方にどのような方がいますかというところで、乳幼児、小学生、中学生、65歳以上の方、介護を必要とする方、障害のある方、いずれもない、こういった選択肢をいただいております。これらを、6ページのところで参考までにクロス集計するための軸として集約させていただいておりますが、未就学の児童のいる世帯、こちらについては就学児童のいる世帯。また児童生徒のいる世帯、小中学生、高校生、そして65歳以上の方がいる世帯、あと介護の必要な方、こちらは介護を受けている方と障害のある方のいる世帯、それぞれをクロスしながら、さらに分析させていただいて、集計の中に必要項目につきまして、分析を行った結果として、取りまとめを最終的にさせていただきました。

最後に、文字での回答につきましても、単純に回答を入力した最終的なものに加えまして、テーマごとに振り分け、分析しまして、それに関する主要な回答につきまして、主な意見ということで、最終ページに掲げさせていただいております。

以上でございます。

黒沼会長 ありがとうございます。

どうぞ。

笠松委員 アンケートの内容を見させていただきました。それで、このアンケートは何を目的にしているかということ、いわゆるこれから骨子案をつくるためのアンケートであることは確かです。それで、例えば17ページの困ったことについてというような話、これは住民の皆さんが何を求めているかという求めに対する設問だろうと思います。

それから、ページをめくっていくと、福祉というものをどこで知った、どういうことに困っているかというようなところも多々ございますけれども、そうすると、今、行政が行っている福祉、それは制度にのっとったものを行っているものに対する住民の方々の答えだろうというふうに見えます。

それで、後半の方にいくと、情報の入手方法、それから町の福祉施策について自由に書いてくださいというところの表現の中などにも、今まで行政が行っていたものに対してはこういう不満があったり、満足しているというような答えに見えますけれども、今、地域社会、地域福祉の中には、その制度に乗らない方々の大変さというものは、皆さんご存じだと思いますけれども、そのものに対する思いやりというか、その方法を今度の骨子に入れる必要があるんじゃないかというふうにも、この内容から見えました。いかがでしょうか。

榎ぎょうせい(松永) そのとおりだと思います。アンケートの中の、特に自由意見の中では、もちろん、制度に対するご意見というのは多大にあったと感じておりました。また、相談したい、あるいは情報を伝えたいというところでも、説明の中では省略させていただきましたけれども、実際にサービスを、細かいところで言うのであれば、例えばサービスを利用しなかった理由というところで、家族で対応できたということで、48ページでございますけれども、半数近くを占めています。ただ、これは家族で対応できたといっても、その中で苦労があったはずだと。そこまで掘り下げるべきだったということが幾つかあるかもしれませんけれども、そのあたりを必要な手助けの支援であるとか、そういった部分を読み取りながら、今回の骨子の中へ反映していくべきだと考えております。

あるいは、サービスの利用に関しても、多くはやはり子育て世代、あるいは介護を必要とする世代、30代あるいは60代の方、この入り口は情報を入手したり利用したいというところの範疇ですので、どうしてもパーセンテージが高くなっておりました。逆に言えば、他の世代の方というのは、その回答に対しては低い割合を示し、あるいは、ややもすれば回答からは読み取りにくいですが、関心が低いということも読み取れるかもしれません。そういった方々をいかにそういった地域福祉活動の中に取り込んでいけるかということも、今回、重大なポイントになるのかなというふうを考えております。

以上でございます。

笠松委員 その見えないところをぜひお願いしたいと思いますし、ここで表現している

方、アンケートに答えた方々は、おおむねレベルの高い方々、知識のある方々、その方々が答えたのかなと思いますし、それから表現のできない弱者といますが、生活困窮している方々、その方々の答えがここに見えないような気がしますし、それはこの中に表現されていないけれども、これからは、町は当然のことであるし、社協の立場から言っても、弱者に目を向ける施策というものも骨子の中にはあっていいんだらうなと思います。

岩瀬委員 ちょっと感想のようなところになるんですけども、相談についてといったところで、53ページですか、男性の方、誰かに相談したいと思うかということで、やはり男女の違いとありますが、どうしても男の人の方が相談しないというような傾向があるのかなというふうには感じていたんですけども、改めてここでも出ているかなと思いますし、自殺対策の計画などもこれから市町村の方で立てていくような方向に、国の方でも決まっているわけなんですけれども、その中で結構、男性の方がなかなか相談されなくて、自死、自殺というふうなことを選択する方も結構見られたりというのは、宮城県内でも全県的にも結構あるかなというふうにも思えまして、そういう点では、相談という部分については、男の人がどうしても敷居が高いという傾向なので、この部分に対しては、何らかの対策というものが必要なのかなというふうに感じたところです。

あと、相談の相手というのは、この中では55ページのところで、同居の家族というふうになっているんですけども、これから単身世帯も多くなり、それから老夫婦世帯も多くなるということは、人口推計から見ても明らかな状況の中で、相談する相手がいないというふうな状況に追い込まれるような家庭環境になっていく傾向があるのかなと思われます。気軽に話が聞けるというような地域づくりの関係のところでは、より、今までだと家族で何とかしてきたけれども、家族だけではもうできないような、地域そのものがみんなでき取り組まなきゃいけないというところが強く出てくるのかなというふうに感じました。

今回、すごく興味深いなと思ったところでは、68ページの虐待とか暴力を見たり聞いたりしたことがあるかということで、あると回答した方が9.7%ということで、1割近くの方が見たり聞いたりしているというこの結果というのは、今回、前の調査の時にはこの項目はなかったんですかね。前の調査の方を見るとなかったようなんですが、何か比較というか、増えているのか、それとも変わらないものなのか、その辺がちょっとわかるかどうか。前回と項目的には。

事務局（渡辺） 今回初めての調査になっております。

岩瀬委員 比較はできないですけども、結構、興味深いとありますが、かなりの比率でそういう部分があるのかなということを考えると、今おっしゃった委員さんの中で、障害のある方でしたり母子家庭でしたりとかで、貧困だったりいろんな問題を抱えている人たちの中に、そういうことが起きてきている可能性も高いなというふうに思うと、アンケートの調査の結果だけではなくて、いろんな部署の関係する方々のヒアリングとありますが、直接、障害福祉にかかわる方とか貧困の方にかかわる、社協さんもそうだと思うんですけども、そういうところから聞こえてきた声なども計画の方

に反映していくのかなというふうには思うんですが、すごく、ちょっと興味深いとい
いますか、非常に気にしていかなければいけない調査項目なのかなと思いました。

黒沼会長 そのほか何かございますでしょうか。

小西委員 的外れの感想なのかもしれませんが、私の率直な感想です。41ページ、
福祉サービスについてということで、利用したいと思った人と思わない人という
と、思った人の方が少ないんですよね。41.8%しかそう思ったことがある人っていないと
いうことですよ。それ以外の人には思っていないということですよ。それから、利
用した人でも、45ページを見ると、福祉サービスを利用した人でも、困ったことは特
になかったというのが断トツで、70.4%なんですよ。

美里町民というのは大変立派で、控えめで、町行政を困らせないというか、第一線の
福祉行政に携わっている健康福祉課の職員の方々にはありがたいことかもしれません
けれども、私から見ると、随分控えめなんだなと。私の的外れなんでしょうか。健康
福祉課の方々として、これはどんなふうにお考えになりますか。

(株)ぎょうせい(松永) 1つ先に申し上げておくと、先ほどちょっと触れさせていただ
いた41ページのところの年齢別のところで、確かにサービスを利用したいと思った経
験というところは、実際には今までなかったというのが5割以上という形になってご
ざいますけれども、年齢別の内訳で見ますと、30代あるいは60代、年齢層、いわゆる
子育て世代あるいは介護を必要とする、この段階で入り口になっているのかなと。福
祉サービスとして、公的なサービスとしての入り口はこのあたりになっていて、逆に
20歳未満のところで見ると、なかったというのが100%ですから、ほとんどその部分
に関する、関心がないということではないですけども、サービスの利用に対する意
識というものは、年齢的なところでは差があるのかなというふうには考えます。

ただ、一方で、利用に当たって困ったところの部分で、特になかったという部分は確
かに一番高くて7割ということになっております。ただ、そのほかの部分で、いわゆ
る声なき声ということも多分にあるんじゃないかと思えますけれども、逆に利用す
ることができなかった、通うのが不便だった、利用したいサービスの内容ではなかつ
た、逆に言えば、これは行ったらけれども利用したいサービスではなかった。要はサー
ビスに対する情報が十分に足りていなかった。そういった部分を含めると、そうい
った困ったことがあったと回答した割合というのはおよそ3割という形になります。
実際にニーズがある方で3割の利用が困ったことがあったという状況を、少なくとも
解消していきながら、地域で支え合い、あるいは必要な共助の原則ということで、助
け合いを進めていきながら、必要なときには公的なサービスにつなげるときに、3割
の方が困ったとしてもなかなかつながらないというこの現状の方が、やはり大きい。
公的な部分で、あるいはある種制度の部分で、7割はつながるけれども、3割はつな
がらない部分があるというところに視点を置いて考えた方が、これは読み取りやすい
のではないかというふうには考えられます。

小西委員 さすが健康福祉の専門家で、お考えが深いと感じました。どうもありがと
うございました。

笠松委員 今の小西委員さんの関連なんですけれども、この表から見た場合は、本当に

町民は困っていないんだなというふうに見えます。しかし、これは、介護を求めるといいますか、本当に表にあらわれて、当然利用したいという方々の意見が少しあるのかなと。いわゆる行政その他でやっている事業に対して、自分はどうかという答えではないかと思います。私は、さっきも言ったんだけど、ここに表現できかねる中身の方々、今、町も社協もそういうはざまにいる方々をどのようにして支えて、地域福祉を充実させるかという流れになっていると思うんですけども、その方々の意見というものがここにどれくらいあらわれているのかと、私は思います。そのところを、この土台はこれなんだから、これにのっただけこれから町はいいんだよということでもいいのか。誰もが、知識のある方々は、そういう方々が困っているんだという、みんな実感していると思います。その意見を、このアンケートに出てこない部分を、先見の明といいますか、これからそれを支えないとこの町はどうなるのというところも入れる必要があるかなと、こう思いました。

西城委員 私も同じ気持ちです。ここの35ページにもあるように、今お話もあったと思うんですけども、下の方に、情報入手できたかについて、手に入れることができなかったとか、あとは、できなかった割合が高くなっている。このあたりがやっぱり問題だと思うんです。このあたりを問題点として捉えていただきながら、あと、今、笠松委員さんがおっしゃったように、わかりやすい例で言えば、下小牛田、うちの方60世帯ぐらいあるんですけども、その中で本当に困ったのは、宅配弁当。家族はいるんです。ただ、日中独居なんですね。それで、本当におばあちゃんは認知で、食べることさえ忘れてる。じゃ、こういうサービスがあるから、さるびあに行ってみたらということでアドバイスしたんですけども、さるびあでは、家族がいるからだめですと。そういう話が2件ほどありました。60世帯ある中で2件。だから、全町で見ると、もっともっとあるはずですよ。やっぱり本当に困っているところで手を差し伸べるのが福祉じゃないかと思うんです。だから、見えないところを掘り下げていって、計画にそれを出していただきたいなと。これはほんの一例なんですけれども、そういう例がいっぱいあると思うんですね。だから、そういう問題点がどのくらいあるのか。もう掘り起こしてしまった方が、かえって計画を立てやすいんじゃないかと思いました。

笠松委員 今回のアンケート調査は無作為での抽出という形でしょう。ですから、今、小西委員さんが言ったように、優等生だけだなという見方に見えるんですけども、答えた方々はそういう方々ですから。むしろ、今、西城委員さんのお話のように、その道を知っている、例えば民生委員さん、行政区長さん、その方々は、各世帯個人まで知り尽くしています。その中に、困っているんだという住民の意見を知っていますから、ここに反映されない、そういうものも入れながら、町はどう進むべきか。あるいは、それに対する専門的な相談を受ける機構をどこかにつくとか、それにはそれ相応のお金が必要かもしれませんけれども、そういうことこそ末端の地域福祉を見るのに必要ではないのかなと感じました。

黒沼会長 そのほかございましたら。

それでは、なければ(2)の方に移らせていただきたいと思います。

美里町地域福祉計画の素案についてということであります。事務局、お願いします。事務局（渡辺） まずは、今皆様方からのお話がありました少数意見という、アンケートの数字に大きくあられない意見を、あとはどういう形で計画に反映させるかというところかと思っておりますので、例えば先ほどの7割が満足しているということで、もう満足だね、もういいねと、そうは思っておりません。数字だけで見ないで、逆にその数字の裏側を見ていく、見直す、そういった形で反映させられるよう検討していきたいと思っております。

（2）でございますが、実は本来の流れから言いますと、事前にお配りすべきものでございますが、先ほどから説明しておりますアンケート調査の報告書を調製作成するのが精いっぱいございました。大変申し訳ございませんでした。また、前回の第1回委員会にお示したスケジュールでは、本来はこの第2回委員会の会議を11月頃を開くというところでございますが、本日の開催になっておりますことをお詫びしたいと思います。

資料2ですけれども、実は松永研究員と昨夜まで調製した未定稿の計画の素案でございますが、第4章以降に個別の施策がまだ記載していない素案となっております。今日は簡単にご説明をさせていただきます。次回の第3回の委員会、来年早々に考えてございますが、そこまでに今のアンケートの状況も踏まえながら、委員の皆様にはより具体的な施策の展開等につきましてご検討いただきたいと思います。ですので、今日は、今からご説明申し上げますけれども、即、何か意見を出してくださいということではございませんので、私と松永研究員からお話をさせていただきますので、そういう目でご覧いただければと思います。

それでは資料2ということで、第1期地域福祉計画（案）（未定稿）ということでお開きいただきたいと思います。

目次のところを見ていただきます。第1章のところは、第1回目の策定委員会でもお話しした中身でございます。計画の入り口というところでございます。それから、第2章で取り巻く現状について記載してございます。第3章で計画の基本方針、第4章で施策の展開ということでございます。今日お示しするものは、第4章の施策の展開概要までとなっております。今後、個別施策の具体のものについて記載していくということでございます。本日はまだお示しをしてございません。

ページをめくっていただきまして、第1回目の策定委員会の中では、5ページまでの部分につきましてはお配りしているとおりでございます。ただし、先ほどご説明させていただきましたとおり5ページ目の（2）のアンケート調査の実施のところの記載内容について修正しておりますので、次回お配りの際には、きちんと修正、訂正したいと思います。

それでは、第2章以降につきまして松永研究員からご説明させていただきます。株ぎょうせい（松永） 6ページからになります。地域福祉を取り巻く現状ということで、統計的な情報を整理させていただいております。

まず、6ページでは、人口・世帯の状況ということで、6ページからのところで国勢調査のデータ、総人口、あるいは一般世帯数の推移というものを、昭和60年から平成

27年までのデータで掲載しております。すみませんがここでも訂正がございます。27年確定値が出ておりました、掲載の中で、表の中のデータが22年のデータになっております。こちらの方は後ほど訂正させていただきますが、7ページの3区分のデータで表記させていただきます。総人口につきましては2万4,852人、ゼロ歳から14歳までが2,820人、15歳から64歳に関しては1万4,142人、65歳以上に関しては7,890人となります。また、一般世帯数に関しましては、6ページの表にも掲載させていただきますが、8,318世帯。1世帯当たりの人員につきましては3.0ということになってございます。

こちらでも見ていただけるとおり、人口に関しては減少しております。また、世帯数に関しては、やや増加傾向に進んではございますけれども、世帯人員に関しては、27年現在の国勢調査の結果で3.0、いわゆる1世帯当たりの人員が3人。普通の家族で言えば、親と子ども、こういったような3人、あるいはその他ご夫婦のうちのもう一人といったような3人世帯という形で、だんだん1世帯当たりの人口が減っている、こういった状況があります。

あわせて、7ページの国勢調査の結果としてお示ししておりますが、高齢者ひとり暮らし世帯の推移を見ていただいて、グラフの中でお示しさせていただいているとおり、いずれも高齢夫婦世帯、高齢者のひとり暮らし世帯は、増加傾向にある。こうした状況が町内の人口・世帯の状況でございます。

続いて8ページになりますが、ここでは人口移動、婚姻件数を掲載しております。人口移動に関しましては、専門的な言葉で恐縮ですが、自然動態、いわゆる出生・死亡。そして社会動態、転入・転出。それぞれの増減状況、こちらにつきましては、国の調査でございます人口動態調査という結果を、こちらの方、平成16年から平成26年までの結果としてまとめてございます。こちらにつきましては、自然動態、いわゆる出生・死亡数で見ますと、増減の結果はいずれも減少が続いている。社会動態、転入・転出の状態で見ますと、年度による増減は見られますが、24年以降、転入数が転出を上回っている状態。ただし、人口に関しては減少している傾向がありますし、26年の人口動態の結果で申し上げますと、自然動態、社会動態の結果が、増減の結果は上回ってございますが、実際には年々人口が減っている状態。こういったものが現在の現状ということで把握しているところでございます。

また、婚姻件数・離婚件数、こちらにつきましては、期間における平均ということで、16年から26年までの結果をまとめてございますが、婚姻の平均は103件、離婚の年平均は44件という形になっております。

続きまして、9ページですが、こちらにつきましては、産業・労働力ということで、産業構造と労働力人口、完全失業者数、こちらについて掲載しております。こちらにつきましては、国勢調査の結果が、本計画中に27年の結果が表記されませんので、あらかじめご了承いただきたいと思います。確定値の発表が来年度になるということで、恐れ入りますが、このデータにつきましては22年のデータということになります。

産業構造の中で就業人口、いわゆる第1次産業、第2次産業、第3次産業、分類不能の産業ということで、それぞれの就業人口の推移、あるいは総数という形で表をまと

めておりますが、産業別では、第1次産業が昭和60年以降減少。第2次産業、第3次産業についても、近年減少に転じているという傾向が見られます。総じて就業人口に関しては減少しております。また、労働力人口、完全失業者数、こちらは労働力人口というのは、未就業人口と完全失業者数を足した人口という形になるんですけども、こちらの方、就業人口が減っていることをあわせまして、人口が減少している傾向がございます。また、完全失業率についても、逆に増加している。こういった傾向が見られるところでございます。

続きまして、10ページからは、地域福祉に係る現状ということで、地域で支援を必要とする人の動向ということで、今回、10ページから子育て、高齢者、障がいのある人、生活保護者、また12ページには虐待相談・通報件数の推移についてまとめております。こちらも、いずれも統計のデータとして取り込んでございます。

1点、こちらは訂正させていただきます。11ページのところでございますけれども、障がいのある人のところで、表の下に注釈をつけてございます。平成27年国勢調査人口ということでございまして、こちらは7,890人になってございますが、総人口2万4,852人に対する割合ということで、文章の中でもお示しさせていただいており、総人口に対する5.8%の方が、障害の手帳交付者のみでございましてけれども記載してございます。決して低くない数字だというふうに見ております。人数だけで見ますと、前ページの10ページにあります、27年度末現在で要介護認定の方が1,404人、障害者手帳の交付のある方は1,439人ということで、決して少くない数字だというふうにご認識していただければと思っております。

続きまして、12ページのところになりますけれども、(2)といたしまして、こちらでは地域の支援体制の現状ということで、文章でございましてけれども、社会福祉協議会、また民生委員・児童委員、地域活動・ボランティア活動につきましての現状を、現在のところでまとめているところでございます。

また、13ページからは、アンケートから見る現状。先ほどご紹介させていただきました概要という形で、今回の話題に直接関係するのではないかとと思われる部分をピックアップして、整理させていただいたところでございます。

1つ目は、地域の方との付き合い。年齢的なものを見ましてもそうですけれども、特に、全く付き合いがないとした回答は、20歳未満が最も多く、70歳代にかけて低くなる一方、70歳以降に再び高くなる。20歳代未満の方というのは、あまり地域との付き合いはないと見られる一方、年齢が高くなるにつれて地域とのかかわりがある一方で、逆に70歳以上で再び高くなるというのは、やはり地域で孤立する傾向というものがおそろくあらわれるのではないかとというふう考えております。

また、次のページでございまして、地域で助け合う気風。社会的な傾向ということでまとめさせていただいたものでございます。

また、といたしまして、先ほどのアンケートにもありましたが、地域で手助けできること、困ったときに助けてほしいこと。こちらの項目について、上位の項目から順にまとめてございますが、アンケートでもありまして、困ったときに手助けできることでは、災害時の手助け、安否確認、話し相手となつてございます。また、

困ったときに手助けしてほしいことでは、災害時の手助け、安否確認の声かけ、話し合いとなってございます。3項目、こういった困ったときに手助けできることと、困ったときに手助けしてほしいこと、特に上位項目が一致していることから、こうしたところでの橋渡し、手助けというのが非常に重要なのではないかと考えております。

15ページになりますが、こちらでは地域活動への関心ということです。こちらに関しましても、アンケートの項目の内容と重複しますので、年齢別のところだけご紹介させていただきますが、ここでは年齢別20歳未満、30代ではあまり関心がないという人が目立ちます。こういったことで、若い世代の方々の関心が高くないというところ、地域活動への関心が持てない傾向が見られるのではないかと見ております。

また、16ページでは、参加状況ということですが、こちらにつきましても、年齢別のところだけご紹介させていただきますけれども、参加傾向にあると回答した割合、特に20歳未満から70歳にかけて、おおむね高まる傾向。途中で高くなったり低くなったりする傾向はありますが、年々だんだん高くなる傾向がございます。一方で、80歳代では、参加傾向が低くなるという傾向が見られるところから、年齢によってなかなか参加することができないような状況というものもあるのかなというふうに見ております。

続きまして、17ページからは、福祉情報をすぐに入手できたかについて。やはりここでも、手に入れることができなかった割合が1割、この方々が手にできなかった状況というものを観察しながら、この計画の中で掘り下げていく必要があるかなというふうに見ております。

といたしまして、17ページの下項目になりますが、相談したいと思わない理由。こちらについても、自分で解決したいから、他人を巻き込みたくないから。やはり他者とのかかわりをなかなか持ちたくないといったような、こういったところから孤立が始まるという部分も想定されます。こういった部分も、少数という形ではなく、こういった方、こちらについて勘案していく必要があるのかなと考えております。

続きまして、18ページ。今度は、必要なサービスが受けられているかについて。こちらについてですけれども、必要なサービスが受けられているかのアンケートの中では、必要なサービスをする世帯の状況ということで、同居の世帯別のクロス集計の結果を載せております。こちらでは、必要なサービスが受けられていると回答した割合、未就学児童のいる世帯では、いわゆる子育てサービスを必要とする世帯では3割、児童生徒のいる世帯では4割、65歳以上のいる世帯では4割、また介護の必要な方のいる世帯では5割ということで、必要なサービスが受けられている方というのは必ずしも多くはない。こういった状況も、この中からは読み取れるのではないかと見ております。

また、19ページからは、こういった現況も含めまして、課題というものを整理してございます。これは現状での課題でございます。

大きく、項目としましては、21ページにかけて6つ挙げております。

1つ目が、支え合い・助け合い活動の実践。主体的なかかわり合い、関係づくりというのが必要だと。

また、(2)として、困りごとや支援を必要としている人の把握。先ほど制度の話の

部分で、サービスにつながっている現状、アンケートの中でそういったものが大きくあらわれているのではないかという話もございましたけれども、さまざまな生活課題に対して、自身で解決したい、他人を巻き込みたくないという理由で、相談しない人も多い、潜在的な課題というものもやはりあるのではないかと考えてございます。一方で、先ほどの手助けしてほしいことや手助けできること、こうしたことをつなげていくこと、これらから、地域全体で支援を必要としている人をいかに把握していくか。こういったことが重要になるのではないかというように考えてございます。

続いて、20ページになりますが、(3) 支援や福祉サービスにつなぐしくみ・体制づくりというものがございます。先ほどの(2)に関連することでございますが、把握した人をいかに支援につなげていくか。こうしたことが課題と思っております。また、この中では、公的なサービスの充実だけではなく、住民同士のボランティア活動によるインフォーマルなサービス、こういったものも重要な役割を果たしていると。こういったことから、公的な福祉施策の量・質的な確保、また必要な支援につなげるためのしくみ、体制づくりというものを考える必要があるというふうに考えてございます。

(4) といましては、情報提供・相談体制の強化。こちらはアンケートの中からの一つですけれども、1割がやはり手に入れることができなかつた、また4割が時間がかかったというふうに回答しております。また、誰かに相談したいというアンケートの結果の中では、家族などの身近な相手の次に、役場や専門家というものが挙がっている。こうしたことから、生活課題が複雑化、多様化している中では、やはり窓口に来る状況などには、かなり切迫した状況、また必要な支援を必要としている状況というのが多いのかなというふうに考えられます。こうしたことから、適切なサービス、支援につなげていくためには、やはり窓口あるいは情報の提供というものが重要になってくるのかなと思っております。

続いて(5)、こちらにつきましては、地域ぐるみによる人権・権利擁護に向けた取り組みの推進ということで、いわゆる虐待に関すること、あるいは権利擁護に関する事項、こうしたことに対する関心を高めていく取り組み、そういったことの推進について触れてございます。

続いて、21ページの(6)の部分では、安心・安全な暮らしへの支援ということで、主に災害時の防犯、交通、健康等、さまざまな安全・安心への関心、こういった中で、地域福祉でそういった基盤をつくっていく。また、そういった暮らしやすい環境をつくる。こういったものの必要性を感じてございます。

こうした現状での課題をまとめた上で、22ページの方では、原案という形にはなっておりますが、計画の基本方針、基本理念をまとめております。

基本理念といまして、あくまでこれは案でございます。「一人ひとりが手を取りあって、ともにいきいきと暮らせるまち みさと」を掲げてございます。

この計画の視点ということで、次の23ページでは大きく4つ。(1) 地域における支え合いの醸成。また、(2) として、住民を初めとする多様な主体の参加。(3) では、一人ひとりを尊重し合う地域づくり。(4) として、地域の生活課題への横断的な対応。大きな項目のテーマとしては、支え合い・助け合い、参加・参画、共生、包

括・連携、こういったことをテーマとして挙げてございます。

こうした計画の中で、このカテゴリーを施策体系として展開するに当たって、大きく4つの基本目標を挙げてございます。こちらが24ページから25ページにかけての4つの基本目標になります。基本目標1として住民一人ひとりが築く、助け合いの地域づくり。基本目標2としては、住民、関係団体、町による協働の地域づくり。基本目標3としては、保健福祉サービスの充実とだれもが活躍する地域づくり。また、25ページの基本目標4では、だれもが安全・安心に暮らせる地域づくりということで、それぞれ目標を掲げた項目をまとめていく予定で書かれてございます。

26ページでは、その施策体系を示してございます。簡単に申し上げますと、基本理念を大きなスローガンといたしまして、先ほど前ページでご紹介させていただきました4つの視点、これを横断的に基本目標の1から4に含めまして、それぞれ展開していくというような体系をまとめてございます。

続いての第4章では、このそれぞれの基本目標の施策の展開ということになります。その前段といたしまして、現状といたしましては、施策を展開するに当たって、地域での支え合いの考え方、自助、互助、共助、公助、これらの考え方について27ページでまとめております。簡単に申し上げますと、それぞれが常にかかわりながら、取組みを推進していくという形にしたいと考えてございます。

最後になりますが、28ページでは、今後取りまとめてまいります施策展開の概要につきましての内容を、簡単ではございますが、例として掲げてございます。今後、こちらの施策展開に対する方向性でありますとか、具体的な方向性、あるいは地域福祉計画における個別施策の考え方、取組み方、こういった部分につきまして、この例を現状挙げられる例として捉えておりまして、今後、次回お示しする計画案の中では、これをより具体的に計画の中で展開する説明、ご紹介をさせていただきたいと考えてございます。

簡単ではございますが、ご説明は以上とさせていただきます。

黒沼会長 それでは、今、ご説明いただきましたが、このことについて何かあればお願いしたいと思います。今日、見せられてすぐはなかなか。

どうぞ。

小西委員 大変基本的な、町についての基本的なデータをこのように整理していただいて、たいへん参考になりました。自分の住んでいる町の状況が、これを見るととてもよくわかる、たいへんありがたい資料だなと思いました。

そこで、1つ2つ、率直に申し上げますが、一番新しいのでも27年度までなんですよね、人口が。町の広報紙では、毎月の人口が書いてありますよね。それを例えば国勢調査とは別に、そういうふうにはっきりわかっているものは入れていただけないのかなというふうに思いました。大抵、26年のラインですね。6ページ、それから7、8ページですね。それから、あとは9ページなんかは平成22年までしか入っていないんですよね。何かもう、できるならばやっぱり、一番新しいところまで入れていただきたいというのが、一つの希望です。

それから、産業別人口とか、それから就業者数、それから高齢者人口、6ページ、7

ページに書いてありますけれども、数が明記されているので大変役に立つんですけども、これ、できれば、全体に占める割合をパーセンテージでも入れていただいたら大変ありがたいなと。ぱっと見たときに、全体でどのくらいになっているのか、計算すればわかるわけですけども、これ計算機でやったらそんなに手間がかからないと思うので、ぜひ入れていただきたいと思います。

それから、もう一つ、これは余計なことかもしれませんが、今、国際化に向けて、外国人と接する機会が多くなっていますよね。小牛田町の時代から、美里町は南郷を含めて、国際交流が大変熱心で、力を入れていますよね。私の知る範囲でも、おそらく住民登録している外国人だけでも、多分70人から80人くらいはいるんじゃないかというふうに思うんです。そういう人たちもここに含めて、外国人の場合とか、そういうこと。

それから、これは個人的なあれですが、外国人の方、小牛田町に住んでいる外国人の方は、福祉は受けられるんでしょうか。例えば、健康保険なんかだめなんだと思うんですけども、外国の方だって小牛田に住んでいて、病気にもなればけがもすると思うんですけども、そのときどうなるのかなと。国際交流に力を入れていて、外国人と接する機会は今後ますます、増えることはあっても減ることはないだろうと思うんですが、枝葉末節かもしれませんが、そういう町の現状に対して、そういうのもちらっと入れていただくとありがたいと思いました。

以上です。

事務局（渡辺） 掲載することが可能かどうかも含めまして検討いたします。

事務局（渡辺） 冒頭申しましたけれども、今見てどうのこうのというタイミングではないと思いますので、来月また開催させていただきますので、そのときにお受けできればと思っております。なかなか事前に配布できなくて申し訳なかったんですが、よろしく願いいたします。

黒沼会長 どうぞ。

西城委員 私、小西さんみたいに優しく言えないのでごめんなさい。正直な意見。アンケートの調査結果とあわせて、これがあったときには、正直言ってがっかりしたんです。やっぱりせっかく委員が集まっているんだから、その中で、このアンケートの結果を見て、何やかんやと言いながら、美里町の本当の課題とか何かそれをお互いに確認し合って、その意見を聞いてぎょうせいさんがこれを作ってくれるものだろうと思っていたんですけども、先にこれを出されたときに、正直言って、公募の委員なんか要らなかったんじゃないかと思いました。ごめんなさい。

そんなわけで、本当に申し訳ないんですけども、今、いろいろと問題点、私たちがこれが問題だなとか、笠松委員さんが、こういうのを考えてほしいとか、あとは虐待の問題も出てきましたけれども、やっぱりそういうのを個々のデータとして取り入れて、それでそれを計画の方に持って行っていただきたいと思います。これが全部だめじゃなくて、せっかくいろいろ皆さんがアンケートを見て、感じたこと、いっぱい出ましたよね。それをここに反映しないことには、何のために私はここに来ているのかというふうになると思うんです。お手数をお掛けしますけれども、よろしく願いし

ます。優しいことは言えません。

事務局（渡辺） 委員がおっしゃったことにつきましてこちらから何も否定いたしません。先ほど申し上げましたとおり、今回の資料については、第4章以降の個別の施策が入っていない素案でございます。前回の委員会の時に、小西委員から、計画策定に必要と思われるいろいろな資料、データが欲しいと、数字的な資料が欲しいというご意見でしたので、事務局と松永研究員の方で内容をチェックして、そこで松永研究員の方で把握されている部分についてお出しできる部分、数値についていち早くご提示したということでございます。当然のことですけれども、公募委員さん、委員の皆様方をないがしろにするような考えは全くありませんので、その辺のところご了解いただければと思います。

です。次の委員会が一番重要になると思いますし、第4章以降の具体的な個別施策案ができましたら、なるべく早く委員の皆様方にお送りするようにいたします。いろいろご迷惑をお掛けしまして申し訳ございません。よろしくお願ひしたいと思ひます。

黒沼会長 どうぞ。

高橋委員 それでは、先ほどの小西委員さんのお話にもかかわってくるかと思ひます。基本的にこういう計画が出るときは国勢調査が主になるということなんですが、スタートのところかふぞろいかなと。60年とか55年とか。年齢別人口が55年からというところがありますので、最新のデータを使うので、27年までのものを使うのであれば、スタートの方をできれば同じくした方がいいんじゃないかというふうに思ひます。

それから、あとは、表記というか見方なんですけれども、13ページ以降のアンケート結果をそのまま表で持ってきているんですが、上の図表と照らし合わせられるような図表、グラフ化できないのか。棒グラフで結構ですので、例えば同じ色合ひで年齢別にやっていくとか、やはり数字を読むというのは見た目として、どうしても見づらいかなと思ひますので、これ以降のところをご検討いただけないかなというふうには思ひました。形の問題ですけれども、そんなところで整えていただくと見やすいんじゃないかと思ひます。

事務局（渡辺） 基本的には、見やすいものに検討いたします。あと、先ほど申し上げたような国勢調査のような統計的な資料ですので、27年が公表されていないとか、そういうことでちょっとそろわないというのはご勘弁いただきたいと思ひます。あと小西委員さんがおっしゃいましたとおり、最新の人口等、これは町で持っていますので、例えばそういうものを掲載したらというのは、実際掲載した形で表記している箇所もございすが、これから検討してみたいと思ひますし、ご意見があればお願ひしたいと思ひます。基本的には見やすく、あと頭をそろえるとか、そういうところを調整検討させていただきたいと思ひます。

黒沼会長 どうぞ。

笠松委員 今、西城委員がお話ししたように、こういうふうに出たのは残念だったという発言、私も少しそう思ひます。というのは、これは案であって、答えたということは確かであろうかと思ひますが、先ほどアンケート結果から、私はこういう部分にも

目を通してくださいというのを幾つか申し上げましたし、そちらからもお話が出たんですが、それらは記録してあると思いますけれども、その部分はこの基本方針のどこに該当して、どのように反映したいなというものは、この次の時には見えるものなのか。この次、またお話しして、それからこれを直していくのか。

それから、この方針というものを、大きな発想の転換というようなものも、私たちが申し上げて、それもこの中に、これがたたき台なんだから、これからそれもやっていますよという考えもあるんでしょうね。

事務局（渡辺） はい。もちろんあります。これで通してくださいとは一言も申し上げておりませんので、何もない中での議論というよりも、ちょうど年末年始にも入るのでというところもございましたし、あと、先ほど申し上げましたとおり、当初の予定よりも、遅れております。ですので、なるべく出せるものは早くお出しして、そのままではなく、当然修正が加えられると思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますし、今日、頂戴したご意見も当然、我々も把握させていただきましたので、そういう形の直しを入れた部分で、松永研究員と相談しながら、次回ご提示するというところで、同じ話を繰り返さないでスピーディーにやっていきたいと思っております。

黒沼会長 それでは、私の方から一言。

基本的に、町社協にも地域福祉活動計画なるものがありますので、ぜひ社協とのお話を密にして、それからきちんと今日の意見を踏まえて素案の検討をしていただければいいのかなと思います。よろしくをお願いします。

事務局（渡辺） その予定であります。

黒沼会長 それでは、そのほかなければ、その他に入ってよろしいでしょうか。

何かその他ありますか。

事務局（渡辺） 事務局からは特にございません。

黒沼会長 それでは、今日はこれで閉会とさせていただきます。どうもご苦労さまでございました。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成 年 月 日

会議録署名人 _____

会議録署名人 _____